

個別給付と地域支援事業をつなぐ

包括支援型・包括報酬型の地域ケア拠点

「地域ケアステーション(丸ごとセンター)」 (仮称)

についての提案

【現状認識】

- 介護給付: 個別給付は、地域で暮らすこと・生活を支える視点より、如何に報酬を取れるかになる
 - 総合事業: 多様な力を集めることを図ろうとしたが、形だけで相当サービスの恒常化となっている
 - 地域づくり: 介護事業所の力は生かすことになっていない
 - 地域包括支援センターもパンク状態
- 高齢化35%以上となっている地方都市では介護人材不足で、介護事業所の閉鎖が始まっている。
- 高齢化が45%以上の過疎地域では、既に介護事業所が撤退している。
- 大都市部では、家族機能は低下し、互助も少ない。
- これから急速に高齢化が進み、介護ニーズが高まるが地域を支える拠点がないたため、施設整備への圧力が高まるが、財源的にも人的にも整備は困難になる。

➤ WAMモデル事業の実践の中から見えてきたこと

生活全般を支えるために、現在の介護保険の個別給付だけでは支えきれないことである。

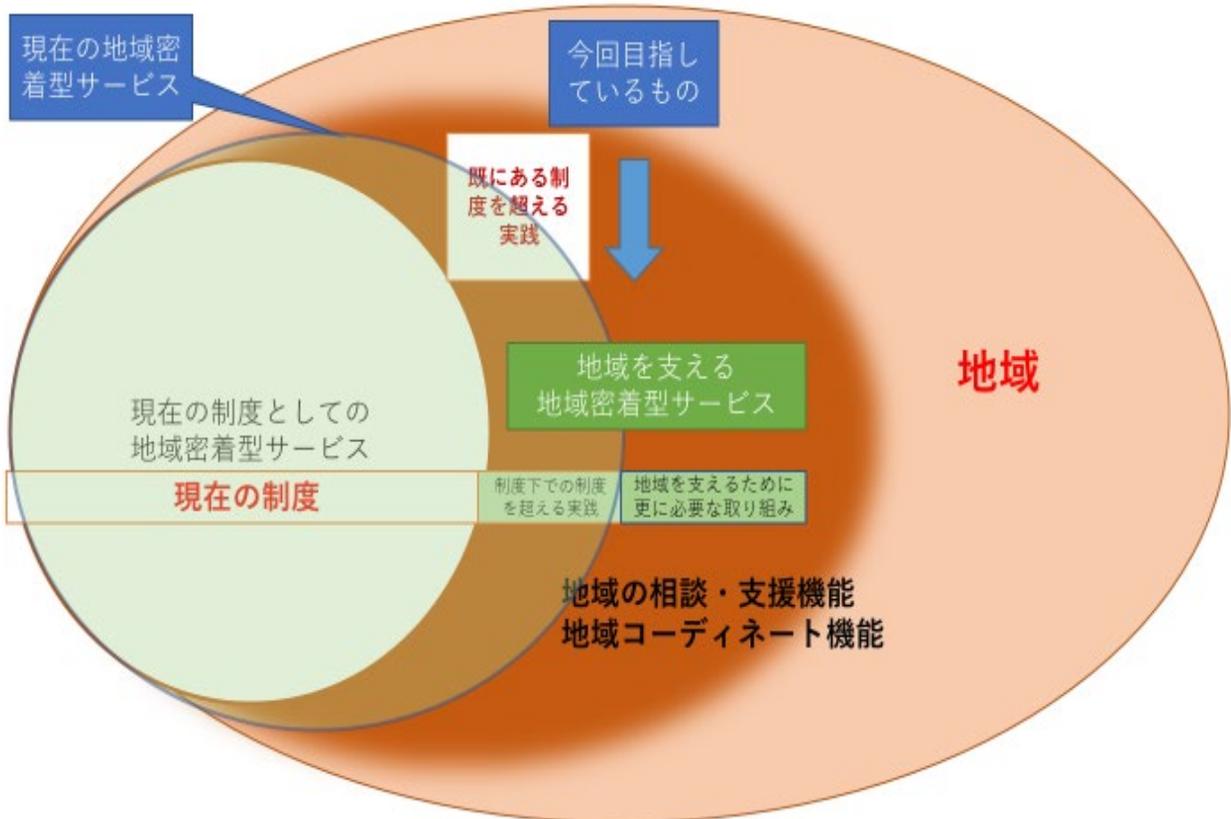
一方で地域に根差した介護事業所では、対象外の方々を支えること、地域ニーズに応えることが行われている。

しかし、この実践に対してほとんど評価されていない。事業者の持ち出しとなっていて、継続は困難になる可能性もある。

○これからの介護は、

加賀市の取り組みのように、地域密着型事業所に相談・支援と地域コーディネイト機能を持たせ、介護人材不足の中、メゾを想定した支援の在り方を介護保険に組み入れることが必要。

- ・ 個別給付と地域への取り組みを併せ持つ地域の拠点が必要



⇐ 評価を! 制度化し実践できるように ⇒